

平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 サワラ

学名 *Scomberomorus niphonius*

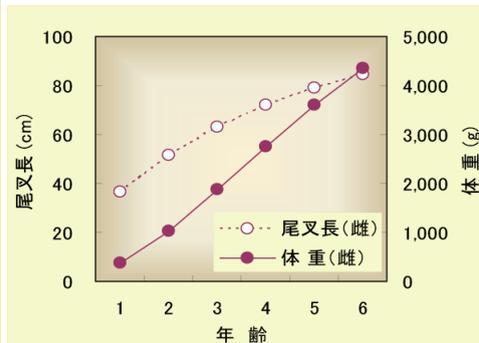
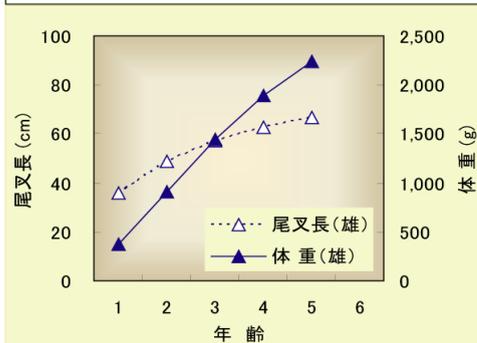
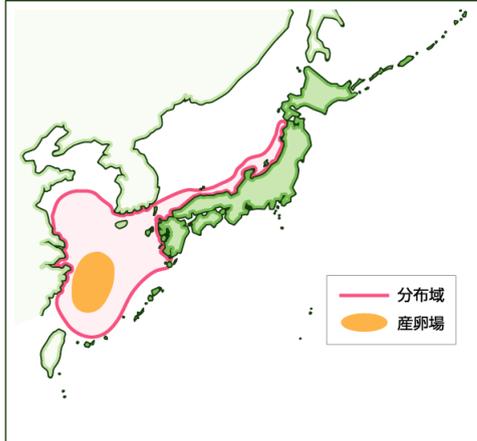
系群名 東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 約6歳
 成熟開始年齢: 1歳(一部)、2歳(大部分)
 産卵期・産卵場: 5～6月に産卵、産卵場は東シナ海の中央部～中国沿岸
 索餌期・索餌場: 夏～秋季、黄海・渤海、日本海など
 食性: 稚魚期以降に魚食性
 捕食者: 不明

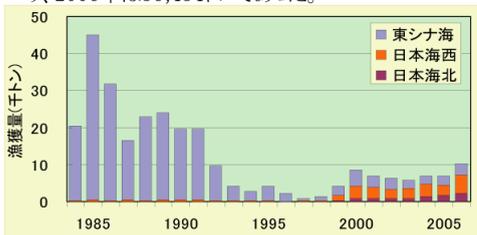


漁業の特徴

東シナ海、日本海に生息するサワラは主に定置網、大中型まき網および曳縄などにより漁獲される。大中型まき網のサワラの漁期は冬季に集中している。1990年代半ばまでは漁獲量のほとんどが東シナ海大中型まき網によるものであったが、近年では漁獲量の20%前後を占める程度となっている。1998年以降、日本海の定置網による漁獲量が増加して、本系群の漁獲量の半分程度を占めている。

漁獲の動向

日本の漁獲量は1984～1991年は20千トン前後で推移していたが、1992年以降に急減して、1997年には822トンまで落ち込んだ。1998年以降は増加し、2000年には8,548トンとなった。2001年には7,004トンに減少したが、2005年まで横ばい傾向を示した。2006年には10,282トンに増加した。韓国のサワラ類の漁獲量は高い水準で増加傾向にあり、2006年は36,484トンであった。

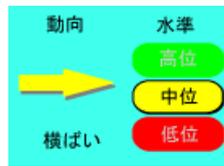
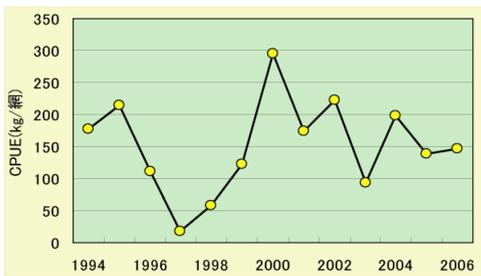


資源評価法

日本および韓国の漁獲量、東シナ海で操業する日本の大中型まき網のCPUE(漁獲量/有効努力量)の相乗平均値を、資源量の増減を示す資源量指標値と考え、これらの情報に基づいて資源評価を行った。中国の漁獲量は資源評価に組み込むことができるほどの信頼性はないと判断し、用いなかった。

資源状態

日本および韓国によるサワラの漁獲量は、過去23年間(1984～2006年)において4番目に高い値であるが、資源量が推定できていないなど不明な点が多く、また、日本の大中型まき網による漁獲物は、0、1歳魚の若齢魚がほとんどであることから、資源水準は中位と判断した。最近5年間(2002～2006年)の資源量指標値が横ばい傾向にあるので、資源動向は横ばいと判断した。



管理方策

資源水準は中位、資源動向は横ばいであり、日本の漁獲量は韓国、中国の漁獲量に比べてはるかに少ないので、現状の漁獲圧を維持しても良いと判断した。したがって、資源量指標値の変動傾向に合わせて漁獲することが妥当である。

	2008年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	7,200トン	Cave5-yr	—	—
ABCtarget	5,800トン	0.8Cave5-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 日本の漁獲量、大中型まき網のCPUEおよび韓国の漁獲量に基づいて資源評価を行った
- 資源水準は中位、動向は横ばい
- 1kg以下の若齢魚が漁獲物の大半を占める

管理方策のまとめ

- 資源量指標値の変動傾向に合わせて漁獲する
- 東シナ海全域での資源状態の正確な把握には、関係国間の協力が必要である

資源評価は毎年更新されます。